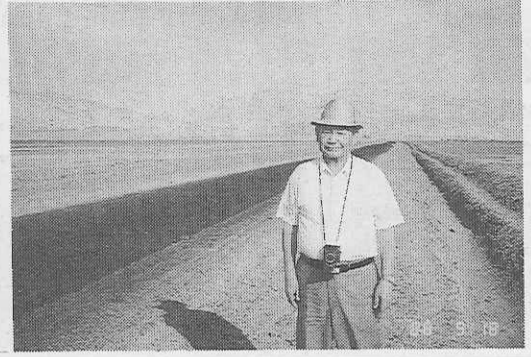


シルクロード敦煌の旅

(2) 北海道支部長 高田治郎
財全修協常務理事



炎熱の火焰山に立つ筆者

トルファンはウルムチからバスで三時間位の所にあり、トルファンとは「オアシス」の意味、天山山脈に囲まれた盆地で、雨は降らず夏は乾燥して、砂の中に卵をいれ、卵の殻が硬くなるという程暑い所といわれている。また、中国で一番の低地で、海拔マインスマイール(約500メートル)の岩石を掘って作ったのが、「ハゼクリク干涸洞」である。

トルファンで最初に行ったのは火焰山で、トルファン盆地の中にあり、高さ500メートル位の岩石で出来ている。太陽が当たると火が燃えているように、「火焰山」と名付けられたと聞いた。一木一草もない文字通り火が燃えているように、その谷の絶壁の岩石を掘って作ったのが、「ハゼクリク干涸洞」である。

この洞窟は唐代の前後四〇〇年の歴史があり、六〇余の洞窟内に仏像の彫刻があった。その深い谷底には水が流れていて草木が生えており、人が住んでいるのは驚いた。洞窟の入口に親子がいたのでお金を渡して写真を撮らした。トルファンでは高昌故城と「交河故城」を見学したが、高昌故城は紀元前一世紀に造営されたもので、共にシルクロードの要衝に当たるので、辺境警備のための城である。交河故城は三〇メートルの巨大な黄土の台地に造営されたものである。見学の時に橋が流れていて、架け替え中であつたが、聞いてみると前に僅か何ミリの雨が降つたので流されたと言つていた。つまり、一木一草もない黄土の大地に降るのであるから、すぐ氾濫するのだ。

オアシス古墳群は、トルファンの東南約四〇キロのところにあり、アスターナは黄金のマスクだけは鮮明な記憶が残っている。

夕食後少数民族の歌舞を見たが、ウルムチの遊牧の民でも、千仏洞を見た人々もみんな日本人と大差はなかった。やはり、黄土の影響でアジア人全体が黄色の肌になつてゐるのだと思つた。

解放後に発掘をしたようである。大量の絹織物、貨幣などが出土したと聞いて、トルファンの博物館には多数の出土品が陳列してあつた。地方豪族夫妻のミイラが棺に並べてあり、その横には二人の肖像画が掛けあつた。その時の説明では、エジプトのミイラは内臓を取つてあつたが、このは取つてないと言つていた。エジプトに三回も行ってミイラを見たが、そのような別はわからなかつた。ただ「ツタンカーメン」の黄金のマスクだけは鮮明な記憶が残っている。

「朝早く起きる」といふことなど「六勿銘」は天山の家訓である。現代にも通じるものだ。

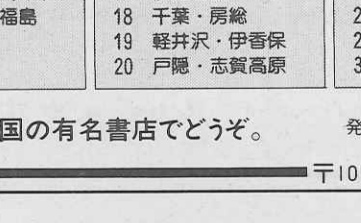
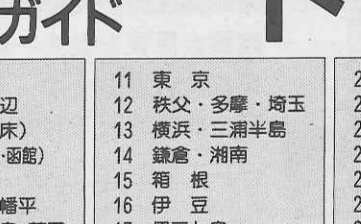
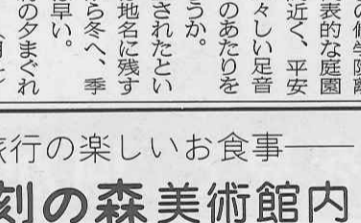
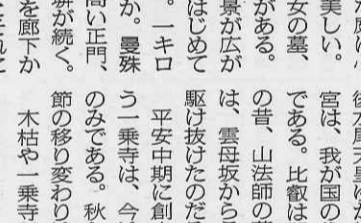
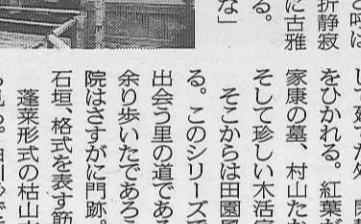
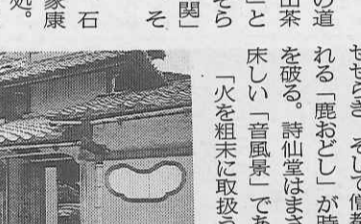
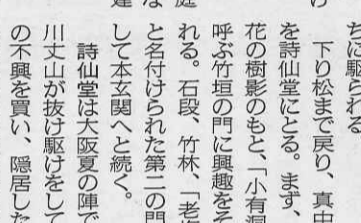
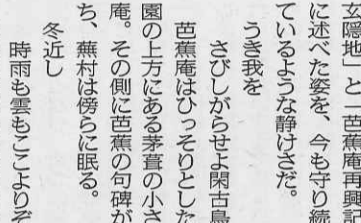
初冬の竹葉なり詩仙堂 鳴雪の句を思い起こしながら、曼殊院への道を行く。詩仙堂から右に折れると円光寺。家康が足利学校に対抗して建てた。閑静な庭に心をなやませる。紅葉が美しい。家康の墓、村山たか女の墓、そして珍しい木活字がある。そこからは田園風景が広がる。このシリーズではじめて出会う里の道である。一キロ余り歩いたであつた。曼殊院はさすがに門跡。高い正門、石垣、格式を表す筋帯が、蓬萊形式の枯山水を廊下から見る。白川砂と海とそれに注ぐ川を表す。水の音が聞こえるような錯覚を覚える。燈籠や泉手鉢は独特のものである。

桂宮の流を汲む良尚親王の縁だろ。国宝黄不動の模像とともに、親王の用いた調度品も並ぶ。欄間の「まじし」や菊の透かし彫り、香木造の曼殊院欄。伝統文化の重みを感じる。

紅葉で名高い赤山禅院も近い。修学旅行では行けないが、後水尾天皇ゆかりの修学院離宮は、我が国の代表的な庭園である。比較は間近、平安の昔、山法師の荒々しい足音を、雲母坂からこのあたりを駆け抜けたのだから。平安中期に創立されたといふ一乗寺は、今は地名に残すのみである。秋から冬へ、季節の移り変わりは早い。木枯し一乗寺村の夕まぐれ (月斗)

「古都—その点・線・面」(6) 白川通を北へ

金福寺 詩仙堂 曼殊院



詩仙堂の本堂(関一峰画)

「音風景」という言葉がある。NHKは、スポットで秩父の高原を走る列車の音でそれを表現する。静の中の動とリズムカルな音の強弱が、人の心に郷愁を誘ふ。

今回の旅は、「音風景」でもいふべきものだろうか。金福寺や曼殊院の葉ずれの音、詩仙堂の「鹿おとし」の写真下、都摩を離れ、それぞれに「宮本・吉岡決闘之地」の碑と三代目といわれる下り松の句が、訪れた人の心に安らぎを与える。住職のこまやかな気配を思う。

芭蕉研究で名高い頼原退蔵の筆塚もここにある。新村出の短冊に書かれた無村の季節の句が、訪れた人の心に安らぎを与える。住職のこまやかな気配を思う。

時雨も雲もこよひぞ 短冊に書かれた無村の季節の句が、訪れた人の心に安らぎを与える。住職のこまやかな気配を思う。

川山が抜け駆けをして家康の不興を買ひ、隠居した。風雅のうちに三十九年を過ごした。李白、杜甫をはじめ、中国の三十六人の詩が、狩野探幽描く肖像画とともに見られる。林羅山と論争したり意見

を入れたりしたいという話も伝わる。文山が「凹凸十二景」と呼んだ四囲の眺めはまた佳絶である。樹齢三百六十余年の山茶花をはじめ、庭の樹々の美しさ、小山、そこを流れるせせらぎ、そして僧と呼ばれる「鹿おとし」が時折静寂を破る。詩仙堂はまさに古雅床しい「音風景」である。

桂宮の流を汲む良尚親王の縁だろ。国宝黄不動の模像とともに、親王の用いた調度品も並ぶ。欄間の「まじし」や菊の透かし彫り、香木造の曼殊院欄。伝統文化の重みを感じる。

紅葉で名高い赤山禅院も近い。修学旅行では行けないが、後水尾天皇ゆかりの修学院離宮は、我が国の代表的な庭園である。比較は間近、平安の昔、山法師の荒々しい足音を、雲母坂からこのあたりを駆け抜けたのだから。平安中期に創立されたといふ一乗寺は、今は地名に残すのみである。秋から冬へ、季節の移り変わりは早い。木枯し一乗寺村の夕まぐれ (月斗)

桂宮の流を汲む良尚親王の縁だろ。国宝黄不動の模像とともに、親王の用いた調度品も並ぶ。欄間の「まじし」や菊の透かし彫り、香木造の曼殊院欄。伝統文化の重みを感じる。

紅葉で名高い赤山禅院も近い。修学旅行では行けないが、後水尾天皇ゆかりの修学院離宮は、我が国の代表的な庭園である。比較は間近、平安の昔、山法師の荒々しい足音を、雲母坂からこのあたりを駆け抜けたのだから。平安中期に創立されたといふ一乗寺は、今は地名に残すのみである。秋から冬へ、季節の移り変わりは早い。木枯し一乗寺村の夕まぐれ (月斗)

桂宮の流を汲む良尚親王の縁だろ。国宝黄不動の模像とともに、親王の用いた調度品も並ぶ。欄間の「まじし」や菊の透かし彫り、香木造の曼殊院欄。伝統文化の重みを感じる。

紅葉で名高い赤山禅院も近い。修学旅行では行けないが、後水尾天皇ゆかりの修学院離宮は、我が国の代表的な庭園である。比較は間近、平安の昔、山法師の荒々しい足音を、雲母坂からこのあたりを駆け抜けたのだから。平安中期に創立されたといふ一乗寺は、今は地名に残すのみである。秋から冬へ、季節の移り変わりは早い。木枯し一乗寺村の夕まぐれ (月斗)

—修学旅行の楽しいお食事—

箱根彫刻の森美術館内 レストランコンポート

◇500名様迄、ご利用いただけます。

◇当レストランは、彫刻の森美術館内の施設ですので、入館を必要とします。

〒250-04 神奈川県足柄下郡箱根町二の平1121 ☎0460(2)1141(代表)

育てる心はみんな同じ。

●営業受付時間
9:00~17:00 (3月16日~11月15日)
9:30~16:00 (11月16日~3月15日)

●修学旅行料金 高校生 1,000円
中学生 700円、小学生 600円
ガイドラジオ バス1台につき1,000円

別府あじむ草原

アフリカンサファリ

〒872-07 大分県宇佐郡安心院町大字南畑 ☎(09784) 8-2 3 3 1代

ハンディタイプ「トラベルメイト」の旅ガイド

1 北海道 札幌とその周辺 道東(阿寒・知床) 道南(十勝・釧路・函館)	2 東北 青森・秋田・八幡平 岩手・仙台・松島・蔵王 磐梯・会津・福島 日光・那須 新潟・佐渡	3 関東 東京 秩父・多摩・埼玉 横浜・三浦半島 鎌倉・湘南 箱根 伊豆 伊豆七島 千葉・房総 軽井沢・伊香保 戸隠・志賀高原	4 中部 松本・上高地・乗鞍 穂科・清里・八ヶ岳 富士五湖・甲府 中部・高山 名古屋・東海 北陸 近江・若狭 京都 奈良 大阪・神戸	5 近畿 伊勢・志摩 南紀 山陰 山陽 四国 九州 北九州(福岡・大分) 西九州(長崎・熊本) 南九州(宮崎・鹿児島) 沖縄
---	--	---	--	--

★お求めは全国の有名書店でどうぞ。

発行 **近畿日本ツーリスト出版事業部**

〒101 東京都千代田区神田松永町19-2 ☎03(257)0779/直通 FAX.03(258)3216